

全国市長会の

動き

6月2日～6月29日

詳細につきましては、全国市長会ホームページ
 (<https://www.mayors.or.jp/>)
 をご参照ください。



発言する立谷会長

#1 「第33次地方制度調査会第2回総会」に立谷会長が出席

6月3日、「第33次地方制度調査会第2回総会」が開催され、委員の立谷会長が出席した。

立谷会長からは、デジタル・トランスフォーメーション(DX)について、①マイナンバーカードの普及促進のため、健康保険証利用といったカード取得のメリットをより明確に周知していただきたい、②東京一極集中の是正に向け、地方における女性活躍や教育格差の是正にDXが有効な手段であることを

念頭に施策を進めていただきたい、③システム標準化の推進に当たり、地域特性に応じた政策が実施できるよう留意すべきであるなどの発言を行った。

また、新型コロナウイルス感染症対応について、個人情報保護の問題でもあるが、保健所を持たない市町村にも感染患者などの情報の共有・連携が図られるよう、必要な対応を検討していただきたいなどの発言を行った。

〔行政部〕

#2 「運動部活動の地域移行に関する緊急意見」をスポーツ庁に提出

6月29日、「運動部活動の地域移行に関する緊急意見」をスポーツ庁に提出した。

緊急意見では、運動部活動の地域移行の必要性や方向性、費用負担の在り方などを明確に示すとともに、スポーツ団体等の整備充実等やスポーツ指導者等の人材の確保について必要な措置を講じるよう要請した。

〔社会文教部〕

後輩・部下の育て方、関わり方 公務員の新・育成術

—思考力・判断力を伸ばす7つの着眼点と実践—

齋藤綾治 著

公職研 定価1,980円(税込)

自分の強みを知り、主体的にその力を生かせるようになることが成果につながるとして、近年自治体の人材育成でも注目される「ストレングス」の視点。現在ストレングスコーチとして活躍する著者が、26年の市職員の経験を元に後輩・部下育成の要点をまとめた書。

調整と合意形成が重要となる自治体の仕事を進める中で、職員は「どう考えるのか」「どう判断するのか」と問われる場面に多く遭遇する。本書は、軸のある思考力・判断力を持った人材を育てるためのポイントを、七つの着眼点として示す。その一つが「主語を使い分ける」こと。「私」「課(部門)」「(わが)自治体」と三つの主語を意識しながら後輩・部下と関わることで、彼らの業務を俯瞰^{ふかん}して捉える力を伸ばすという。

さらに、育成に当たって、後輩・部下との「関わり方」が重要と指摘。育成者が「聴く力」を持って、対話をベースに後輩・部下と互いを理解し合う意義を唱える。

こうして、共に思考力・判断力を育んだ育成者と後輩・部下は、組織の中で好循環を生み、組織の発展につながっていく。

職員・組織の意識改革にも好適な一冊である。

